

参考資料 I

学校の災害リスク整理表

学校の想定される災害リスクにはどのようなものがあるか、以下の整理表を参考に、学校が所在する自治体のハザードマップ等から確認してまとめ、マニュアルの冒頭等に備えておくことをお勧めします。なお、ハザードマップ等が更新された際には、新たに書き換えを行ってください。

あなたの学校の災害リスク整理表（一部抜粋）

過去の被害状況						
災害名	学校の被害状況や所在する地域の被害状況					
宮城県北部地震	震度5弱の揺れで、学校周辺の家屋の多くは、ブロック塀の倒壊など被害が多かった。					
東日本大震災	道路に亀裂が入る被害。地域には50mの津波が押し寄せた。幸い学校敷地内の津波被害はなかった。					
令和元年東日本台風	道路が冠水し、通行止め箇所が多くあった。近くの〇〇川は氾濫危険水位まで達していた。					
基本情報						
学校の標高	2 m					
校舎階数（高さ）	2階	屋上有無	無	避難可能な階までの高さ		3 m
避難所指定の有無	有	対象の災害	地震	土砂災害	洪水	
避難場指定の有無	有	対象の災害	地震	土砂災害	洪水	
自治体発表の各種ハザードマップ想定（学校及び学校周辺のリスクで該当するものは何か）						
大雨による洪水被害想定（ハザードマップ作成年月日 令和〇年〇〇月〇〇日現在）						
対象となる河川	① 北上川	② 旧北上川				
河川から学校までの距離	① 1 k m	② 2 k m				
学校の浸水深	5 m	※最大想定				
その他の情報（周辺の状況等）	学校及びその周辺が低地である。 （周辺の河川の状況等）その他の河川も雨量が多い（令和元年東日本台風時）と、すぐ溢れそうになる。					
土砂災害による被害想定（ハザードマップ作成年月日 令和〇年〇〇月〇〇日現在）						
被害想定場所	校舎	その他（ 体育館 ）				
警戒区域の別	土砂災害警戒区域					
想定土砂災害の別	急傾斜地					
その他の情報（周辺の状況等）	大雨警報が発表されると、度々、土砂災害警戒情報が発表される場所である。					
津波による被害想定（ハザードマップ作成年月日 令和〇年〇〇月〇〇日現在）						
海（河川）から学校までの距離	3 k m					
学校の浸水深	0.5～1 m	※最大想定				
その他の情報（周辺の状況等）	海側には、住宅やマンションなどが建ち並び、海を見ることができない。					
噴火による被害想定（ハザードマップ作成年月日 令和〇年〇〇月〇〇日現在）						
対象の活火山	蔵王山					
火口からの学校までの距離	15 k m					
融雪型火山泥流想定の有無	有	泥流到達予想時間	約 60 分後			
降灰想定の有無	有	降灰の量	10 c m			
その他の情報（周辺の状況等）	融雪型火山泥流が想定されている川が学校から50mと近い。 融雪型火山泥流が、20c m想定されている。					
原子力災害による防護措置（地域防災計画作成年月日 令和〇年〇〇月〇〇日現在）						
原子力災害対策を重点的に実施すべき区域の別	緊急防護措置を準備する区域（UPZ）					
その他の情報（周辺の状況等）	学校周辺は、津波の浸水が想定される地域でもあり、複合的に発生した際には、児童を保護者に引き渡すよりも津波からの安全確保を最優先した避難行動を取らなければならない。					

